

広島における原爆関連行事の通時的变化（二）*

渡 壁 晃**

1 はじめに

本研究の目的は戦後の広島における原爆関連行事の全体像を記述することである。本研究では、1955年（被爆10周年）から10年ごとの原爆関連行事を記述していく。渡壁（2021）では、1955年、1965年、1975年の行事について記述した。そこで本稿では、1985年と1995年の行事について記述する。

本稿では、1985年と1995年の8月1日から8月15日までの間に『中国新聞』に掲載されたすべての行事について記述する¹⁾。新聞記事の収集は、2017年11月14日から2019年9月30日の間に国立国会図書館関西館と広島市立中央図書館で行った。

2 広島における原爆関連行事

本節では、広島における原爆関連行事について原則日付順で記述していく²⁾。行事名や主催者名などは略称等であっても原則新聞記事の通りに記載している。「」で示したのが行事名である。

2.1 1985年の行事

2.1.1 行事の内容

2.1.1.1 7月31日までの行事

1983年9月には、東ドイツのベルリン市とマグデブルグ市で長崎市主催の「原爆展」が行われ

た。

1985年4月27日には、広島市内で被爆した市内電車に乗っていた県被爆教職員の会会長の石田明が呼びかけた「市電已斐行き被爆者の集い」が開かれた。

5月9日から8月4日にかけて、東京都江東区夢の島から平和記念公園までのルートで日本被団協など市民9団体主催の「反核市民平和大行進」が行われた。

6月から9月にかけて、北海道の27会場で公務員の前田治らの青年グループが草の根平和団体や自治体に呼びかけ、被爆写真や市民の描いた絵など計130点を集めた「広島原爆資料巡回展」が行われた。そして、6月1日には、シアトルで「外国人記者を広島取材に招き、被害の実相を世界に伝えてもらおうというアキバ・プロジェクト」（『中国新聞』1985.8.6朝刊）の記者をパネリストとして、平和に関するアメリカ人の意識を探る「シンポジウム」が開かれた。

7月6日から8月6日にかけて、ノルウェーのオスロから広島までのルートで北欧や米国、日本の反核青年グループ「バイク・フォー・ピース'85」主催の「自転車行進」が行われた。そして、7月29日と30日には、ソ連のモスクワ労働会館で全国被爆教職員の会会長の石田明らが被爆写真50枚を展示する「ヒロシマ・ナガサキデー」が開かれた。そして、7月31日から8月6日にかけて、広島市中区胡町の天満屋で広島平和教育研究所などが主催の「被爆40周年記念・増田勉個

*キーワード：戦争社会学、ヒロシマ、行事

**関西学院大学大学院社会学研究科博士課程後期課程

1) これは渡壁（2021）と同じ方法である。

2) 『中国新聞』は広島以外の場所（たとえば、東京や海外）で開催された行事も報道している。本稿ではそれらについても記述していく。また、8月1日から8月15日までではない日（たとえば7月や9月）に開催される行事も掲載されることがあるが、それらについても記述していく。以上の方法は渡壁（2021）と同じである。

展」が開かれた。この行事は、元第一国民学校の美術教師で被爆画家の増田勉の個展で、原爆のすさまじさを表現した「血の失せた人・人・人」など計38点が展示された。

2.1.1.2 8月1日から5日までの行事

8月1日には、長崎市の平和公園で「平和祈念像の水洗い」が行われた。

8月1日から2日にかけて、東京都千代田区の学士会館で無党派市民や学者、文化人が呼びかけた「ヒロシマ・ナガサキ40年国際フォーラム」が開かれ、草の根の平和運動家や市民、科学者らが核兵器廃絶の道筋について討議した。また、8月1日と2日には、東京都・平河町の日本都市センターで「反核・日本の音楽家たち」主催の「反核オペラコンサート『奇妙な6つのシーン』」が開かれた。そして、8月1日から6日にかけて、平和記念館で「8・6平和文化映画上映会」と「原爆死没者名簿公開」が行われた。「8・6平和文化映画上映会」では、1日にヒロシマ国際アマチュア映画祭のグランプリ作品など20作品が上映され、2日以降に「ザ・デイ・アフター」や「にんげんをかえせ」、「おこりじぞう」などが上映された。さらに、8月1日から31日にかけて、平和記念館で「市民が描いた原爆の絵展」が開かれた。また、8月1日から9月1日にかけて、ひろしま美術館で日米のグラフィックデザイナー約200人の作品を展示する、ひろしま美術館・広島国際文化財団・中国新聞社などが主催の「日米平和ポスター展—生存のためのイメージ」が開かれた³⁾。

8月2日には、広島YMCAで「広島YMCA『平和への祈り』」が行われた。この行事では、丸木美術館のスライドの鑑賞や在日大韓広島教会の金信煥牧師の講演「韓国、朝鮮人と原爆」、原爆供養塔前での祈祷会などが行われた。同じ日には、平和記念公園で「平和記念公園の一斉清掃」が、長崎国際文化会館で核禁会議の「被爆40周年'85全国集会」が行われた。

8月2日から3日にかけて、実行委員会主催の「原水爆禁止'85世界大会国際会議」が開かれた。

2日は広島国際ホテル別館で、3日は広島月華殿で行われた。3日夜に「国際会議・広島から世界の人びとへのよびかけ」を採択したが、これは起草委員会が紛糾した結果、最終文案が作成できず座長3人が同委員会の討議を踏まえて作成したものであった(『中国新聞』1985.8.4朝刊)。さらに、8月2日から5日にかけて、中央公民館で「市民が描いた原爆の絵展」が開かれた。そして、8月2日から10日にかけて、京都市勧業館で'85・平和のための京都の戦争展実行委員会主催、京都市などが後援の「'85・平和のための京都の戦争展」が開かれた。この行事では、広島県高校生平和ゼミナールから贈られた被爆エノキが展示された。同じく被爆エノキが展示された行事として、8月2日から大阪市内で開かれた「戦争展」⁴⁾がある。また、8月2日から31日にかけて、広島県立美術館と平和記念館で「被爆40周年記念広島平和美術展」が開かれた⁵⁾。この行事では、子どもを背負って反核の署名をする母親を描いた四国五郎の「署名する母子」をはじめとする絵画など計284点が県立美術館で、絵画30点が平和記念館で展示された。

何日間開催されたか不明であるが、8月2日まで、日本サッカー協会・中国新聞社などが主催するサッカーの「国際平和祈念大会」が開かれた。8月2日は広島県営競技場で行われた。

8月3日には、新八丁堀会館で全国の非核宣言自治体で組織する非核宣言自治体連絡協議会の「第2回総会」が開かれた。同じ日には、広島YMCAで広島市の特別名誉市民でワールド・フレンドシップ・センターの創設者の「バーバラ・レイノルズさんを囲む会」が、広島市婦人教育会館で「全通広島被爆二世の会」が開かれた。そして、広島市映像文化ライブラリーで「松竹作品『長崎の鐘』上映」と尾上和彦のオラトリオ「鳥の歌・ひろしま」などを聞く「原爆をテーマにした音楽をさく」も行われた。さらに、広島ステーションホテルで全国被爆教職員の会の「被爆40周年ヒロシマ・ナガサキ被爆教職員のつどい」もこの日に開かれた。この行事では、「教え子を再

3) 8月1日から9月1日まで是一般公開の期間である。開会式は7月31日に開かれた。

4) この行事の開催日程がいつまでであったかは不明である。

5) 広島県立美術館での展示は8月6日までであった。

び戦場に送らない、ノーモア・ヒロシマのため平和教育・平和運動の先頭に立ち、被爆者援護法実現を目指す」とのアピールが採択された（『中国新聞』1985.8.4 朝刊）。また、この日には、ロサンゼルス日本人街リトルトーキョーの一角にある広場でアジア系の反核団体や婦人団体などが主催する広島、長崎の被爆40周年を記念する「集会」が開かれた。

8月3日から核兵器廃絶を訴える2グループが連携した「マラソン」が行われた。三木正憲らのグループが芦屋市役所から平和記念公園までを、関東地方のマラソン愛好会「グローバルマラソン協会」のメンバーが平和記念公園から長崎までを走った。そして、8月3日から4日にかけて、文京区民センターで草の根平和のつどい実行委員会主催の「草の根平和のつどい」が行われた。この行事では「反核の主役として草の根が今後も交流の場をつくり、連帯の輪を広げる」ことなどが確認された（『中国新聞』1985.8.5 朝刊）。さらに、8月3日から6日にかけて、広島県社会福祉会館で全国大学生協同組合連合会主催の「平和行動『ピース・ナウ・ひろしま'85』」が開かれた。

8月4日には、広島市で原爆資料保存会主催の「第22回原爆慰霊碑巡拝」が、広島市公会堂前で「原爆犠牲国民学校・教師と子どもの碑慰霊祭」が、浄法寺で「広島市商死没者追善法要」が、広島市西区の行者山頂上で曹洞宗国泰寺が建設した仏舍利塔の「入仏式」が行われた。同じ日には、広島市婦人教育会館で原水爆禁止全国学生実行委員会主催の「8・4全国学生平和集会」が、広島労働会館で実行委員会⁶⁾主催の「国際核ヒバクシャ・フォーラム」が、幟町小学校で幟町小学校の全児童とカナダ・ノバスコシア州のハミルトン小学校の教職員9人と児童4人の「交流会」が、広島市映像文化ライブラリーで「東宝作品『生きものの記録』」の上映が行われた。さらに、この日には、原爆ドーム前で草の根の平和運動グループによる「反核リボン」が、広島市で被爆者と被爆地を歩く会の「例会」⁷⁾が開かれた。「反核リボン」は米国で始まった平和運動「ザ・リボン」を

日本に持ち込んだもので、参加者は原爆ドームの周りを平和リボンで囲み、核兵器廃絶を誓い合った。同じ日には、ワシントンで米国国防総省を囲む「ザ・リボン運動」が行われた。「例会」では、市民や横浜市の草の根反核グループの若者らが参加し、広島赤十字病院前から平和記念公園までのコースをたどり、被爆者から体験を聞いた。また、8月4日からタイ・バンコクで宗教団体など民間の25団体が主催する「反核平和週間」が行われた。「反核平和週間」の行事として8月4日に市内の戦勝記念塔から国立チュラロンコン大学までのルートで「平和行進」が、チュラロンコン大学で仏教、キリスト教各派、イスラム教信者による「原爆犠牲者追悼式」が、国立タマサート大学で「平和祈念音楽公演」が行われた。

8月4日から5日にかけて、広島月華殿で日本原水協主催の「原水協・核兵器廃絶のための国際会議」が開かれた。そして、8月4日から6日にかけて、原水禁国民会議主催の「原水爆禁止'85世界大会広島（被爆40周年原水爆禁止大会）」が行われた。この行事は4日と6日は広島県立体育館で、5日は広島市内など16会場で行われた。

何日間行われたか不明であるが、8月4日まで、東京から広島市までのルートで原水協主催の「平和行進」が行われた。また、8月4日から、広島県立体育館で「第2回国際平和児童・生徒作品展」が行われた。この行事には、日本側から約600点、米国、ルーマニア、ハンガリーなど11か国から163点が出品され、日本側の130点は米国の作品と交換された。

8月5日には、広島市役所旧本庁舎前庭で「広島市原爆死没公務員追悼式」が、広島市水道局基町庁舎南側では広島市水道局の「原爆死没水道局職員追悼式」が、世界平和記念聖堂で「平和を考えるつどい—原爆犠牲者追悼と平和祈願ミサ」が、原爆供養塔で浄土真宗本願寺派の「被爆40周年追悼法要」が、本川橋西詰めの韓国人原爆犠牲者慰霊碑で「韓国人原爆犠牲者慰霊祭」が、原爆の子の像前で広島YMCAでの「被爆者の体験を聞く集会」（後述）に参加した市民グループ

6) 実行委員長は広島県被団協理事長の森滝市郎であった。

7) 「ヒバクシャと被爆地を歩こう」という行事も掲載されているが（『中国新聞』1985.8.3 朝刊）、記事の内容からこの行事と同一とみなした。

「チルドレン・アズ・ティーチャーズ・オブ・ピース」による「慰霊式」が、広島市東区二葉山山頂の平和塔（仏舎利塔）前で二葉山平和塔祈念祭典委員会主催の「二葉山平和塔祈念祭」が、広島市南区の似島で「似島原爆死没者慰霊碑参拝」が行われた。そして、元安橋東詰めでは『原爆犠牲ヒロシマの碑』碑前祭」が行われた。また、同じ日には、段原公民館で「講演会『明日は原爆の日』」が、見真講堂で「念仏者平和大会」が、三滝寺で「日本仏教者平和集会」が、広島市社会福祉センターで全国各地で草の根平和運動をしている市民グループによる「8・5反戦・反核広島集会」が、広島城跡公園で「デルタ女の会8・5“ようこそ”集会」が、西本願寺別院で「献灯式・灯の行進」が、世界平和記念聖堂から平和記念公園までのルートで「平和祈願行進」が、平和記念公園で広島県内の高校生でつくる高校生平和ゼミナールの「原爆フィールドワーク」が、安芸津町の3公民館で「平和について考えよう・映画のつどい」が、広島YMCAで「被爆者の体験を聞く集会」が、似島で広島市教組の若い教師らが呼びかけた「原水爆禁止少年少女のつどい」が行われた。さらに、広島県立体育館で日本生活協同組合連合会主催の「'85ヒロシマ虹のひろば」が、広島県婦人会館で「日本被団協全国大会」と「日本被団協・被爆者・遺族大会」が、広島全日空ホテルで「表彰式」が、広島県民文化センターで「ソロ・バリトンリサイタル」が開かれた。「'85ヒロシマ虹のひろば」では、「暮らしの場から草の根の平和運動を広げよう」とのヒロシマアピールが採択された（『中国新聞』1985.8.6朝刊）。「日本被団協・被爆者・遺族大会」では、「核戦争起こすな、核兵器なくせ」「原爆被害者援護法をいまずちに」などのスローガンを盛り込んだ「呼びかけ」が採択された（『中国新聞』1985.8.6朝刊）。「表彰式」は被爆40周年事業として増岡厚相が実施したもので、全国各地で被爆者の生活や健康の相談に乗ったり、地域や病院での介護・医療にあたってきた広島被爆者関係の功労者が出席した。また、8月8日には長崎市で長崎被爆者関連の功労者の「表彰式」が行われた。「ソロ・バリトンリサイタル」は広島文化女子短大教授で広島の声楽家の益田遙のコンサートで、峠三吉の原爆詩を

もとにした尾上和彦作曲「島のうた・ひろしま」より「にんげんをかえせ」など15曲を歌った。

8月5日から9日にかけて、広島市・長崎市主催の「世界平和連帯都市市長会議」が開かれた。この行事は、5日午前は広島市公会堂で、5日午後と6日は広島グランドホテルで、8日と9日は長崎市で行われた。この行事の基調テーマは「核兵器廃絶をめざして―核時代における都市の役割」で、6日には「ヒロシマの被爆体験を未来への警鐘として受け止め、核実験の即時全面停止を要求」し、「非核地帯の設定や非核都市宣言を支持し、国際世論づくりに都市が努力することを確認」し、「米ソ両国首脳に核軍縮への努力を求めるとともに、第3回国連軍縮特別総会の早期開催を要請」する「広島アピール」が全会一致で採択された（『中国新聞』1985.8.7朝刊）。9日には「現在保有されている核兵器が使用されると」「人類滅亡は必至であると警告」し、「核軍縮とともに通常兵器の縮小も訴え、軍備競争がもたらす経済的負担を飢餓や貧困の根絶のためにふり向けなければならない」とする「長崎アピール」と1986年中に第3回国連軍縮特別総会（SSDIII）を開くことなどを求めた国連事務総長宛の要望書を全会一致で採択した（『中国新聞』1985.8.10朝刊）。また、この行事の関連行事として8月5日から7日まで、広島そごうで広島市などが主催の「姉妹都市フェア」が開かれた。

何日間行われたか不明であるが、8月5日まで、広島県立美術館で「常設展・平和への願い」が開かれた。

2.1.1.3 8月6日の行事

8月6日には、複数の慰霊行事が行われている。原爆ドーム横では「中国・四国土木殉職者慰霊祭」が、NTTビル東側では「電気通信関係原爆死没者慰霊祭」が、多聞院では「広島郵便局原爆殉職職員慰霊祭」が、中国郵政局構内では「郵政関係職員慰霊祭」が、中島小学校西側では「県職員慰霊祭」が、東白島公園内では「国鉄職員慰霊祭」が、平和大通り南側では「広島市医師会原爆殉職会員・医療従事者慰霊祭」が、西念寺では「広島県被団協追悼法要」が、広島市中区本川河岸では「新聞労働者『不戦の碑』除幕式」が、原爆供養塔では各宗派による「原爆死没者供養行

事」が、広島護国神社では「原爆慰霊祭」が、荒神堂では「広島女高師・広島女高師付属山中高女・第二県女三校合同慰霊祭」が、平和大橋西詰めでは「広島市女職員・生徒慰霊祭」が、持明院では「広島市女慰霊祭」が、広島市公会堂西側では「県立第二中慰霊祭」が、元安橋東詰めでは「動員学徒慰霊祭」が、平和大通り北側緑地帯では「第一県女慰霊祭」が、広島大学構内では「広島大学慰霊祭」が、平和記念公園では広島市の「原爆死没者慰霊式・平和祈念式」と「嵐の中の母子像供養」が、善応寺では「左官町周辺縁故者供養塔慰霊祭」が、旧中島本町慰霊碑では「旧中島本町慰霊碑慰霊祭」が、平和記念公園内の川内村義勇隊慰霊碑では「川内村義勇隊慰霊碑慰霊祭」が、府中町役場前広場では「府中町『原爆の碑』除幕式」が、広島県高田郡吉田町青山の火葬

場跡では広島県高田郡吉田町原爆被害者の会の「式典」が、庄原市本町の宝蔵寺では「庄原市原爆死没者追悼慰霊祭」が、庄原市山内町の原爆慰霊碑前では「追悼・慰霊祭」が、大竹市総合市民会館前庭の原爆慰霊碑「叫魂」前では「第3回原爆死没者追悼・平和祈念式」が、鳥取市文化ホールでは鳥取県原爆被害者協議会の「被爆40周年原爆死没者追悼・平和式典」が、東京・目黒の五百羅漢寺では「移動演劇隊『桜隊』の慰霊追悼会」が、ローマ近郊のカステルガンドルフォの離宮ではローマ法王ヨハネ・パウロ二世による公式追悼行事である「特別ミサ」が行われた。この日には、原爆ドーム南側の元安川など5か所で原爆犠牲者の霊を慰める「とうろう流し」も行われた。

8月6日には、慰霊行事以外の行事も開催され

表1 1985年8月6日の慰霊行事⁸⁾

行事名	場所	主催者
中国・四国土木殉職者慰霊祭	原爆ドーム横	
電気通信関係原爆死没者慰霊祭	NTT ビル東側	
広島郵便局原爆殉職職員慰霊祭	多聞院	
郵政関係職員慰霊祭	中国郵政局構内	
県職員慰霊祭	中島小学校西側	
国鉄職員慰霊祭	東白島公園内	
広島市医師会原爆殉職会員・医療従事者慰霊祭	平和大通り南側	
広島県被団協追悼法要	西念寺	
新聞労働者「不戦の碑」除幕式	広島市中区本川河岸	
原爆死没者供養行事	原爆供養塔	
原爆慰霊祭	広島護国神社	
広島女高師・広島女高師付属山中高女・第二県女三校合同慰霊祭	荒神堂	
広島市女職員・生徒慰霊祭	平和大橋西詰め	
広島市女慰霊祭	持明院	
県立第二中慰霊祭	広島市公会堂西側	
動員学徒慰霊祭	元安橋東詰め	
第一県女慰霊祭	平和大通り北側緑地帯	
広島大学慰霊祭	広島大学構内	
原爆死没者慰霊式・平和祈念式	平和記念公園	広島市
嵐の中の母子像供養	平和記念公園	
左官町周辺縁故者供養塔慰霊祭	善応寺	
旧中島本町慰霊碑慰霊祭	旧中島本町慰霊碑	

8) 空欄は新聞記事からは不明であったことを示している。以下の表についても同様である。

川内村義勇隊慰霊碑慰霊祭	川内村義勇隊慰霊碑（平和記念公園内）	
府中町『原爆の碑』除幕式	府中町役場前広場	
式典	火葬場跡（広島県高田郡吉田町青山）	広島県高田郡吉田町の原爆被害者の会
庄原市原爆死没者追悼慰霊祭	宝蔵寺（庄原市本町）	
追悼・慰霊祭	原爆慰霊碑前（庄原市山内町）	
第3回原爆死没者追悼・平和祈念式	大竹市総合市民会館前庭の原爆慰霊碑「叫魂」前	
被爆40周年原爆死没者追悼・平和式典	鳥取市文化ホール	鳥取県原爆被害者協議会
移動演劇隊「桜隊」の慰霊追悼会	五百羅漢寺（東京・目黒）	
特別ミサ	カステルガンドルフォの離宮（ローマ近郊）	
とうろう流し	原爆ドーム南側の元安川など5か所	

ている。広島県立体育館では原水協の独自集会である「核兵器廃絶のための国際行動デー広島集会」が行われた。そして、原水禁運動の組織が統一して開催する地元実行委員会主催の「原水爆禁止'85世界大会『ヒロシマのひろば』」と、それに先立って平和記念公園から広島県立体育館までのルートでの「平和行進」も行われた。同じ日には、原爆ドーム前で草の根市民グループの平和を語る青年のつどいなどが呼びかけた「ダイ・イン」が、広島市内各地で日本生活協同組合連合会主催の「生協連・平和活動交流」が、広島YMCAで「原爆被害者証言のつどい」が、二葉中学校で広島・デルタ女の会が呼びかけた「女たちが創る8・6ヒロシマの集い」が、吉島中学校で「8・6高校生集会」が、平和記念公園周辺で中核派を中心とする「8・6広島反戦闘争実行委員会」の「デモ行進」が、広島市中区のホテルで広島県被団協の森滝市郎理事長ら被爆者代表7人と中曽根康弘首相が参加する「被爆者代表から要望を聞く会」が、府中公民館で日米の大学生が参加する「平和シンポジウム」が、平和記念公園でYMCA国際平和研究所が主催し、広島女学院の中・高・大学生ら20人が協力した50年前の爆心地付近の街並みを絵に再現して核兵器の脅威を改めて訴える「野外ギャラリー」とボストン交響楽団常任指揮者小沢征爾や米国の世界的指揮者レナード・バーンスタインらによる「レクイエム合唱」が、平和記念公園内の原爆慰霊碑前で原爆によって19人の戦友を失った布教使による「琵琶ひき語り」が、被爆した生徒の多くが似島で治療

を受けた広島女高師付属山中高等女学校の同窓生による「島での医療活動を聞く会」が、県民文化センターで「第6回原爆犠牲者にささげる音楽の夕べ」が、広島商工会議所などで広島電鉄主催の「被爆電車の集い」が行われた。また、「ノーモア・ヒロシマ—平和の中で私たちは生きよう」をテーマに行われた作文コンクールの応募者約5万人の中から選抜された5人を含むスウェーデンの青少年平和使節団と広島の高校生の「交流」もこの日に行われた。

8月6日には海外でも複数の行事が行われた。米国コロラド州ボルダー市内では国際シャドー計画による「原爆の熱線で焼き付けられた爆死者の人影を路上に描く」が、ボストン市内の広場では「平和集会」が、マニラでは市民組織「フィリピン非核連合」など2団体の「集会」とフィリピン・クラーク米空軍基地、スビック米海軍基地に貯蔵されているとされる核兵器の撤去を要求する「デモ行進」が行われた。また、全米教会会議などによって日本の原爆投下時刻に合わせて各地の教会で一斉に「鐘を鳴らす」行事も行われた。そして、8月6日から10日にかけて、反核・平和団体、市民グループの中心的存在である「生存のための動員」(MFS)が全米45か所の核施設に「抗議デモ」を行った。何日間行われたか不明であるが、8月6日から、米国ネバダ州の核実験場の入り口前では「反核デモ」が行われた。

8月6日、7日、11日には、レナード・バーンスタインが指揮する「広島平和コンサート」が開かれた。6日と7日は広島県・広島市・厚生省な

どが主催し、郵便貯金会館で開かれた。11日は主催者は不明であるが、ウィーンの国立歌劇場で行われた。8月6日と9日には、京都府原爆被災者の会が呼びかけ、京都府内の寺院や教会が原爆投下時刻に鐘を鳴らす「平和の鐘」が行われた。そして、8月6日から18日にかけて、東京・銀座五丁目のギャラリーで「平和な日常生活にしのびよる核戦争」をテーマにした「ヒロシマの日・満40周年記念展」が開かれた。

何日間行われたか不明であるが、8月6日まで、マニラの国立図書館で日比文化協会などが主催する「広島、長崎原爆写真展」が、8月6日から、福屋で旧制広島一中の1年生の時に被爆したグラフィックデザイナーで愛知県立芸大教授の片岡脩の作品展「平和アピール・片岡脩ポスター展」が行われた。

2.1.1.4 8月7日から15日までの行事

8月7日には、長崎市松山町の運動公園で原水禁国民会議の「長崎結集集会」が、広島市内で原爆投下時に広島鉄道局建築課に在籍していた元職員が集まって被爆時の思い出を語り合う「宇品建築の集い」が開かれた。

8月7日から9日にかけて、長崎市内で日本原水協の独自集会「核兵器廃絶のための国際共同行動デー長崎集会」が開かれた。

8月8日には、長崎市公会堂から平和公園までのルートで原水爆禁止世界大会長崎実行委員会主催の「市内統一行進」が、長崎市立商業高校で「被爆40周年・第12回全国高校生平和集会」が、広島市中区中島町の鶴会館で爆心地近くの中島町かいわいの変遷の様子を語り合い、記録に残す目的で戦前からこの地区に住んでいる住民が集まった「中島今昔を語る会」が、長崎市で長崎被爆者手帳友の会主催の「第2回全国戦争犠牲者国家補償要求長崎大会」が行われた。同じ日には、ニューヨーク市のリバーサイド教会でピアニストの井上和子が10の市民・平和団体と連携して実現させた「ヒロシマ・ナガサキ追悼40周年記念演奏会」が行われた。

8月8日から9日にかけて、長崎市の市民会館体育館などで「原水爆禁止'85世界大会メイン大会」が開かれた。また、この行事の関連行事として、8日夜には長崎市松山町の大橋球場で地元の

長崎準備委員会主催の「野外反核コンサート」が開かれた。

8月9日には、長崎市の平和公園で長崎市主催の「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」が、浦上天主堂で「追悼ミサ」が、長崎市浦上の丘で長崎大司教区主催の「たいまつ行列」が、マニラでフィリピンの反核市民運動や反マルコスの学生組織などの共催の「デモ行進」が、米国・ニューハンプシャー州ニューウイングトンの空軍基地で「デモ」が、長崎原爆のためのプルトニウムを製造した米国・ワシントン州ハンフォードの核物質貯蔵施設で「デモ」が、米国・カリフォルニア州リバモアのローレンス・リバモア研究所で「デモ」が行われた。また、場所は不明であるが、長崎大司教区主催の「平和祈願ミサ」もこの日に行われた。

8月9日から15日にかけて、有楽町センタービルで「ヒロシマ・ナガサキその光へのアピール」が開かれた。

8月10日には、長崎市内で「つくろう核のない平和を」をテーマに長崎の証言の会・長崎ユネスコ協会など8団体が主催する「第6回ナガサキ国際フォーラム」が開かれた。同じ日には、太田川放水路河川敷で広島祭委員会・中国新聞社などが主催の「'85ひろしま夏まつり太田川花火大会」が行われた。この行事では、「被爆40年 ひろしまの祈りを込めて」をテーマにしたレーザー光線が夜空に輝き、3000発の花火が打ち上げられた（『中国新聞』1985.8.11朝刊）。

8月11日には、浦上天主堂など長崎市内の6か所から平和公園までのルートで世界平和祈念旬間行事実行委員会主催の「第14回原爆犠牲者慰霊・世界平和祈念市民大行進」が、京大楽友会館で京都府向日市の子ども会「がんばるくらぶ」が中心になって米国に派遣する「子供平和大使」の一行を激励する「反核平和使節団歓送会」が行われた。そして、同じ日には、広島国労会館で反侵略と平和を誓う集い実行委員会主催の「反侵略と平和を誓う集い」が開かれた。この行事では、「職場、地域を通してノーモア・ヒロシマ・ナガサキとノーモア・ナンキンの願いを継承させよう」とする集会アピールが採択された（『中国新聞』1985.8.12朝刊）。

8月13日には、県立千代田高校で「校内平和

集会」が開かれた。同じ日には、平和記念公園で来日中のハワイの高校生による「ヒロシマ学習」が行われた。

8月15日には、西ドイツのカッセル市とアナタール市で「被爆40年ヒロシマ平和祈念集会」が行われた。

2.1.1.5 8月16日以降の行事

何日間開催されたか不明であるが、8月16日まで、ワシントンDCで全米グラフィック協会ワシントン支部長チャールズ・ヘルムケンの「反核ポスター展」が開かれた。

同じく何日間開催されたか不明であるが、8月17日まで、東洋信託銀行広島支店で「ヒロシマを彫る」と題した作品37点を展示する「木版画展」が開かれた。そして、8月17日から25日にかけて、広島の被爆語り部ら6人がフィリピンへ向かい、戦争被害者、反基地グループ、原子力発電所反対地域住民との交流をはじめ、反核集会などに参加する「ヒロシマ—フィリピン交流の旅」が行われた。

8月18日には、浄光寺で被爆死した陸軍広島幼年学校の3少年の霊を慰める「慰霊祭」が同期生らによって行われた。

何日間開催されたか不明であるが、8月18日まで、安芸郡府中町の歴史民俗資料館では「戦争・原爆展」が、那覇市の神原中学校では沖縄で平和運動をしている「平和の創造実行委員会」主催の「平和のための戦争資料展」が開かれた。「平和のための戦争資料展」は侵略への道、沖縄戦、沖縄の軍事基地、核兵器と戦争の4つのコーナーで構成されていた。

何日間開催されたか不明であるが、8月20日まで、広島市中区基町の紀伊国屋書店で『『もう一つのヒロシマ』の挿絵原画展』が開かれた。「もう一つのヒロシマ」は1984年夏から259回にわたって中国新聞で連載された企画で、爆心から900メートルにあった中国新聞社の被爆体験記である。

8月22日から30日にかけて、京都府向日市の子ども会「がんばるくらぶ」を中心とした「平和使節団の反核平和アピール」が行われた。この行事は、京都と大阪の子どもたちが主役の平和使節団が渡米し、核兵器研究所、軍備工場、国防総省

などでデモとピラマキをしたり、米国の子ども平和団体「キャン・ドゥー」と交流したり、シアトルで日米両国の子どもたちの絵や手紙を公開する戦争と平和展を行うものであった。

10月28日には、広島郵便貯金会館ホールで広島国際文化財団・中国放送・中国新聞社主催の「小沢征爾がささげる『戦争レクイエム』演奏会」が開かれた。この行事は、被爆40年にあたって指揮者の小沢征爾の強い要望により企画された特別公演であった。

2.1.1.6 開催日程が不明な行事

開催日程は不明であるが、鳥取市原水協事務局長の伊谷周一が鳥取市西町にある自宅の築地塀で「被爆写真・原爆展」を開いた。この行事は8月3日朝刊に掲載された。また、全米の路地などで「生存のための動員」が原爆に焼きつけられた死者の影をスプレーで再現する「シャドープロジェクト」が、開催場所も不明であるが「生存のための動員」による日本から原水協の被爆者を招いた「巡回講演会」が、米国・ウィスコンシン州のラクロスなど各地で「灯ろう流し」が行われた。これらの行事は8月5日朝刊に掲載された。

2.1.2 小括

この年代の行事の特徴は2点ある。

まずあげられるのが、草の根の市民団体による行事が多数開催されていることである。たとえば、8月1日から2日にかけての「ヒロシマ・ナガサキ40年国際フォーラム」や8月3日から4日にかけての「草の根平和のつどい」、8月4日の「反核リボン」、8月5日の「8・5反戦・反核広島集会」と「'85ヒロシマ虹のひろば」などである。

2点目にあげられるのが、非核宣言自治体連絡協議会の「第2回総会」や広島市・長崎市主催の「世界平和連帯都市市長会議」のように非核都市宣言と関連した自治体による行事が行われていることである。

2.2 1995年の行事

2.2.1 行事の内容

2.2.1.1 7月31日までの行事

1994年12月8日から1995年8月3日にかけて、ポーランド・オンフィエンチムから広島市ま

でのルートで日本山妙法寺主催の「平和と生命への超宗派巡礼」が行われた。

1995年5月6日から8月3日にかけて、日本原水協などの「原水爆禁止国民平和大行進」が行われた。この行事は、5月6日に出発する東京・広島コースと6月8日に出発する富山・広島コースの2コースで行われた。そして、7月8日から27日にかけて、米国・ワシントンのアメリカン大学で「原爆資料展」が、7月22日から9月17日にかけて、広島市現代美術館で「被爆50周年記念展『ヒロシマ以後 現代美術からのメッセージ』」⁹⁾が開かれた。7月24日から29日にかけては、広島市で「核兵器のない世界を目指して」をテーマとする「バグウォッシュ会議」が開かれた。また、7月29日から30日にかけて、平和フェスティバルの行事として岡山県笠岡市と広島市の間を走る「Peace Run '95 to Kasaoka」が、7月30日には、メキシコ市の国立芸術院前でフランスの核実験再開決定に反対する環境保護団体グリーンピースのメキシコ支部による「抗議行動」が行われた。そして、7月31日から8月2日にかけて、広島国際会議場などで国連 NGO 軍縮特別委員会などが主催する「被爆50年国際シンポジウム」が開かれた。2日には広島、長崎の被爆者が被爆後50年が経っても心身を侵されているうえ、第二次世界大戦後は核実験やウランの採鉱によって多くの放射線被害者が生み出されたことを指摘し、軍事機密の名によって隠されてきたこれらの世界の被害の全容解明と被害者救済を当事国や国連に強く求める声明を発表した（『中国新聞』1995.8.3朝刊）。さらに、7月31日から8月6日にかけて、平和記念公園などで広島市の被爆50周年記念事業である世界各地の子どもたちを招いた「こども平和のつどい」が行われた。3日に行われたメイン行事「こども平和会議」では「広島で学んだことを語り継ぎ、平和な世界を築

こう」との平和アピールが採択された（『中国新聞』1995.8.4朝刊）。また、7月31日から8月18日にかけて、広島中央郵便局で平和を訴える絵手紙約260点を展示する「とどけ、平和の絵手紙展」が開かれた。

何日間開催されたか不明であるが、6月28日から米スミソニアン航空宇宙博物館で予定されていた「原爆展」の内容を大幅に変更・縮小した「エノラ・ゲイ展」が、7月末から東京から長崎までのルートで自治労連県本部からなる実行委員会による「反核平和マラソン」が行われた。

2.2.1.2 8月1日から5日までの行事

8月1日には、縮景園で広島県教育委員会主催の「縮景園原爆犠牲者慰霊供養式」¹⁰⁾が、長崎市内で「バグウォッシュ会議」に参加した外国人学術者を招いた長崎市内の市民団体や反核団体の「核廃絶をめざす科学者ナガサキ国際フォーラム」が、中国郵政局中庭で中国郵政局が被爆50周年事業として保存する被爆建物の「広島通信病院旧外来棟の補修整備完成式」が、鳥取市の県民文化会館で「国際平和コンサート」が、平和記念公園で広島東ロータリークラブの「平和記念公園の清掃」が行われた。そして、歴清社は本社で被爆した社員たちが全社員を前に被爆当時の惨状を語る「勉強会」を行った。また、場所は不明であるが、東広島市主催の「戦後50周年記念講演会」もこの日に開かれた。

8月1日から2日にかけて、東京都千代田区の総評会館で原水禁国民会議などの「被爆50周年原水爆禁止世界大会国際会議」が開かれた。そして、8月1日から6日にかけて、平和記念資料館で「原爆罹災者名簿・原爆死没者名簿・原爆死没者検視調書などの公開」が行われた。さらに、8月1日から7日にかけて、広島そごうで広島市内の原爆慰霊碑の「詩画集『あしたきらきら』の原画展」と広島市・広島市教委・中国新聞社主催の

9) 新聞広告によると、この行事の主催は広島市現代美術館・中国新聞社、後援は広島県・広島県教育委員会・NHK 広島放送局・中国放送・広島テレビ・広島ホームテレビ・テレビ新広島・広島エフエム放送であった。そして、この展覧会は「1945年から今日に至るまでの『核』に関する作品を歴史的に展覧しながら現代美術の歩みを振り返る第1部と「招待作家が、ヒロシマをテーマにインスタレーションを構成」する第2部の2部構成であった。また、第1部は7月22日から、第2部は7月30日から行われた（『中国新聞』1995.8.4夕刊）。

10) 『中国新聞』1995年8月2日朝刊に「平和の祈り」という行事が掲載されているが、記事の内容から「縮景園原爆犠牲者慰霊供養式」と同一の行事であると判断した。

「あの日あゝのころ ひろしま 50 年展」が開かれた。「あの日あゝのころ ひろしま 50 年展」では、広島市が市民から収集した資料など 800 点に加えて実物大に復元した戦後の闇市などが展示された。

何日間開催されたか不明であるが、8月1日から中国新聞ビルで「平和アピールポスター展」が、東京・新宿のギャラリーで「世界のヒバクシャ写真展」が開かれた。

8月2日には、NTT クレドホールで被爆 50 周年記念の「Kampo 地域シンポジウム」¹¹⁾が、古市公民館で映画「しんちゃんのおさんりんしゃ」の上映などをする「平和がたりの夕べ」が、江田島町役場で江田島町原爆被害者の会が建てた「『平和』の碑の除幕式」が、三良坂町の平和公園で「小中学生平和集会」が、広島市役所で安佐北区の「ひまわり会」代表による「被爆体験記『わたしたちの 8月6日』」の出版会見が、平和記念公園で「平和記念公園一斉清掃」と中国郵政局主催の「アオギリの下で被爆体験を聞く会」が行われた。さらに、この日には、広島グリーンアリーナでユネスコ・広島市などからなる実行委員会主催のユネスコ設立 50 周年を記念したコンサート「ピース・ワールド・イン広島 '95」が行われた。この行事は、「次代を担う世界の子供たちが集い、広島から歌で平和や命の大切さを世界に発信する目的」で開催された（『中国新聞』1995.8.3 朝刊）。

8月2日と3日には、パレスチナ先行自治区ガザ市で民間平和運動団体「ピースボート」がパレスチナ解放機構（PLO）主流派ファタハ青年部の協力を得て「七三一部隊展・原爆展」を開いた。そして、8月2日から7日にかけて、広島県民文化センターとメルパルク広島で広島平和美術協会・中国新聞社など主催の「第41回広島平和美術展」が行われた。第1会場の広島県民文化センターでは被爆プラタナスを主題とする四国五郎の「樹 18、263日」などが展示され、第2会場のメルパルク広島では書などが展示された。さらに、8月2日から5日と10日、11日には、映像文化ライブラリーで「名作映画鑑賞会『被爆 50 周年

特集』」が開かれた。この行事では「千羽づる」「黒い雨」「原爆の子」「さくら隊散る」「TOMORROW 明日」が上映された。

何日間開催されたか不明であるが、8月2日から中島小学校で「科学教育研究協議会全国大会」¹²⁾が開かれた。

8月3日には、長崎市の平和会館で「原爆殉難教え子と教師の慰霊式」が、広島市中区の河原町公園で「神崎学区原爆慰霊碑の除幕式」が、中国新聞社ホールで中国新聞社の「物故者・物故販売所長合同追悼式」が、原爆供養塔前で強制連行された中国人・被爆者遺族を広島に招く実行委員会主催の「追悼式」が行われた。この日には、場所は不明であるが、販売会社クマヒラの「原爆物故者追悼法会」と熊平製作所の「原爆物故者追悼法会」も行われた。同じ日には、府中南小学校で「平和学習」が、広島西隣保館で「福島地区被爆者のつどい」が、ロンドンの国会議事堂前広場で反核団体による「反核のともしび」が、サンスクエア東広島で「ピース・ワールド・イン広島 '95 東広島公演」が、広島厚生年金会館で広島市・中国新聞社などからなる実行委員会が主催するピース・ワールド・イン広島 '95 事業の「N 響スペシャル」が行われた。

8月3日から5日にかけて、広島厚生年金会館などで「核兵器全面禁止へ草の根の国際共同行動」をテーマとする日本原水協などの「原水爆禁止 1995 年世界大会国際会議」が行われた。そして、8月3日から20日にかけて、紀伊国屋書店広島店で長崎新聞社・中国新聞社主催の「戦後・被爆 50 年ブックフェア」が行われた。この行事は、広島市内の5書店と呉、三原、福山、三次市内の6書店でも8月10日まで開かれた。

何日間行われたか不明であるが、8月3日から、島根県邑智郡川本町の島根県合同庁舎前から広島までのルートで島根県職労青年部の「平和徒步行進」が、島根県邑智郡瑞穂町のいきいきセンターみずほから平和記念公園までのルートで中高生らによる「'95 歩こうヒロシマまで」が、岡山県幸町の西川アイプラザで「原爆展」が、東京・

11) 新聞広告によると、この行事の主催者は中国郵政局・郵政省簡易保険局・広島市内各郵便局・中国新聞社であった（『中国新聞』1995.8.12 朝刊）。

12) 行事の詳細は不明であるが、参加者は被爆者の話を聞いたようである（『中国新聞』1995.8.3 朝刊）。

銀座のデパートで平和記念資料館や被爆者などの写真17枚を展示する「写真が語る戦後50年 土門拳の日本」が行われた。

8月4日には、平和記念公園そばにある原爆犠牲国民学校教師と子どもの碑前で碑維持委員会主催の「被爆50周年原爆犠牲国民学校教師と子どもの碑慰霊祭」が、広島高等裁判所前で「法曹界原爆物故者慰霊式」が、本願寺広島別院で中国電力の「物故者法要」が開かれた。同じ日には、平和記念公園から広島グリーンアリーナまでのルートで原水禁などの「行進」が、広島グリーンアリーナで広島平和教育研究所や全国被爆教職員の会などをつくる実行委員会主催の被爆国の日本、原爆投下国の米国、日本に占領されたシンガポールの子どもの集まる平和集会「ありがとう平和 こんにちは未来」が、牛田公民館で被爆の話、音楽、アニメ映画の上映などをする「牛田町民平和のつどい」が、アステールプラザで「ピースランナーフォーラム&ウェルカムパーティー」が、原爆ドーム前で「九条のタベ・ドームよ永遠に！」¹³⁾と日本山妙法寺の「平和祈念」が、世羅中学校で「平和集会」が、三原市の南小学校で「平和集会」が、紙屋町交差点で「全関東学生雄弁連盟」の8人が平和問題をテーマとして「ヒロシマ・ナガサキの声を世界に」などと訴える「アピール」が、平和記念公園で連合広島の「欧州平和使節団」がギリシャから持ち帰った火を「平和の灯」に献火する「献火式」が、本川小学校で姉妹・友好校のドイツ・ハノーバー市と長崎市の小学生を招いた「平和のつどい」が、広島市中区で広島原爆の子記念財団主催の英訳「原爆の子」読書感想文コンテストに入賞した米国の高校生2人と原作の執筆者でつくる「『原爆の子』きょう竹会」の会員による「交流会」が、アステールプラザで「少年少女による世界平和音楽祭」が行われた。

8月4日から5日にかけて、広島女学院高校で広島市を中心に17高校と海外14か国の高校生が

平和、環境、飢餓をテーマに話し合う「'95国際高校生サミット」が開かれた。そして、8月4日から6日にかけて、広島グリーンアリーナなどで原水禁国民会議などの「被爆50周年原水爆禁止世界大会・広島大会」が開かれた。さらに、8月4日から9月30日にかけて、チェルノブイリ原発事故による被ばく者の治療・補償活動にあたった「キエフ・チェルノブイリ連合」が主催する「被爆50周年の原爆展」が開かれた。この行事には、原発事故被ばく者の救援活動を続けていた府中市の市民団体「ジュノーの会」が協力した。

詳しい日程は不明であるが、8月4日頃に2日間、三次市から平和記念公園までのルートで北部地区部落解放子ども連合会主催の中学生を中心にした「平和行進」が行われた。また、何日間開催されたか不明であるが、8月4日まで、日本生協連が提唱した「市民平和行進」¹⁴⁾が、広島県民文化センターでは「第11回国画会ヒロシマ写真展」が開かれた。

8月5日には、段原中学校慰霊碑前で「原爆死没者慰霊祭」¹⁵⁾が、元安川左岸で「『原爆犠牲ヒロシマの碑』碑前祭」が、原爆供養塔前で「子どもの慰霊祭」が、中区堺町1丁目の韓国人原爆犠牲者慰霊碑前で「韓国人犠牲者慰霊祭」が、超覚寺で建設会社砂原組の「原爆死没者追悼法要」が行われた。同じ日には、広島全日空ホテルでひろしま国際センター・南方特別留学生広島歓迎会主催の「ひろしまアジア塾公開講座『南方特別留学生来広記念講演会』」が、平和記念公園で広島市青少年センターの「ボランティア英語教室」で学ぶ高校生が在留学生らを招く「平和公園ガイドツアー」が、江波山気象館で「被爆関係資料説明会」が、平和記念公園の原爆慰霊碑前で原水禁国民会議などの原水爆禁止世界大会参加者らが中国の核実験やフランスの核実験再開決定に抗議する「座り込み」が、世羅町で「『戦争犠牲者追悼の碑』除幕式」が、府中公民館で「ジャンボ折りづる作り」が、御調町文化会館で「平和のつどい」

13) 『中国新聞』1995年8月5日朝刊に原爆ドーム前で憲法擁護と平和を訴える「『第九条の会ヒロシマ』の集会」という行事が掲載されているが、名称や行われた時間からこの行事と同一のものと判断した。

14) 東京・広島コースが8月4日に平和記念公園に到着した。他のコースがあったのかは不明である。

15) 『中国新聞』1995年8月5日夕刊に「旧第一国民学校慰霊祭」という行事が掲載されているが、行われた場所からこの行事と同一のものと判断した。

が、下関市内で「平和ウォーク」が、放射線影響研究所で放影研設立 20 周年記念行事実行委員会による「放射線影響研究所の初の一般公開」が、広島県立総合体育館でユニセフ親善大使の黒柳徹子や脚本家の小山内美江子、婦人国際平和自由連盟日本支部会長徳末愛子らが呼びかけて結成した実行委員会主催の「核兵器なくそう女性のつどい '95」が、広島市南区のホテルで「'95 非核宣言自治体全国大会」が行われた。「核兵器なくそう女性のつどい '95」では「思想や信条を超え、核戦争阻止、核兵器廃絶、被爆者援護・連帯に力を合わせよう」とのアピールが採択された（『中国新聞』1995.8.6 朝刊）。また、「'95 非核宣言自治体全国大会」ではフランスに核実験再開の撤回を求め、フランス製品不買運動などを盛り込んだアピールが採択された（『中国新聞』1995.8.6 朝刊）。そして、JR 大阪駅から広島へ向かう特別列車「ピーストレイン 95・反核平和号」の運行もこの日に行われた。さらに、8月5日には、カトリック観音町教会で「被爆 50 年音楽奉納・打楽器コンサート」が、広島県民文化センターで「ノーモア・ヒロシマ・コンサート」が、サンプラザホールで「ピースウェーブコンサート 95」が、映像文化ライブラリーで「ヒロシマ 31 年目の証言」などを上映する「広島在住のアマチュア映像作家が撮ったヒロシマ」が、福山市中央公民館で「『原爆の子』など 3 本の上映」が、アステールプラザで東京のバイリンガル雑誌「ひらがなタイムズ」が企画した在日外国人と日本人による「朗読劇『トンボが消えた日』上演」が行われた。朗読劇「トンボが消えた日」は原爆という戦争被害と日本の植民地支配などの戦争加害の両面を訴えるものであった（『中国新聞』1995.8.3 朝刊）。

8月5日と6日には、カトリック広島司教区平和年推進委員会主催の行事が複数行われている。5日には、エリザベト音大ホールで「ピースソング・フェスティバル」が、世界平和記念聖堂で「被爆」と「戦争」の2つの「証言の集い」と日韓の2人による「被爆者証言会」が、平和記念公園一帯で「慰霊碑巡り」が、原爆供養塔前で「祈

りの集い」が、原爆供養塔から世界平和記念聖堂までのルートで「平和行進」が行われた。「平和行進」のあとには、世界平和記念聖堂で平和祈願と原爆犠牲者追悼の「ミサ聖祭」が行われた。6日には、世界平和記念聖堂で原爆犠牲者を追悼する「平和の祈り」と元従軍慰安婦と元兵士による「戦争被害者の証言会」と韓国、フィリピンの司教を招き、日本の加害責任を見つめなおすことを目的とする「シンポジウム『アジアの司教から』」が、エリザベト音大ホールで中四国のミッションスクール 5 校の代表が平和への道を求めて議論する「高校生フォーラム・イン・ヒロシマ」が開かれた。また、2日間を通して世界平和記念聖堂前のマリアホールで平和の手紙 40 点などが展示される「こどもの平和文化祭」が行われた。

8月5日と6日には、東広島市中央図書館で「『はだしのゲン』上映会」が開かれた。そして、8月5日から6日にかけて、広島市南区の樹心庵で被爆者の思いをボランティアが米国の子どもや市民に伝える「ネバー・アゲイン・キャンペーン (NAC) 『平和大使』最終候補者の広島合宿」が行われた¹⁶⁾。さらに、8月5日と8日には、ミュージカルの「ピースチャイルド広島 '95」の公演が行われた。この行事では、国内外の中学 1 年生から大学 3 年生までが演じた。5日は広島市青少年センターホールで、8日は呉市文化ホールで行われた（『中国新聞』1995.8.6 朝刊）。また、8月5日から11日にかけて、広島市中区の中央公園で環境汚染された地球を癒すことを目的とする国内の芸術家らでつくる「HOPE プロジェクト実行委員会主催の「三本の巨大な針を大地に立てるイベント」」が行われた。この行事は、1995年2月に亡くなったフィリピンの芸術家ロベルト・ヴィラヌエヴァが生前に考案し、被爆地を「最も治療の必要なツボ」として被爆 50 周年での実施を計画していたものであった。

2.2.1.3 8月6日の行事

この年も8月6日には、複数の慰霊行事が行われている。広島市中区加古町の旧県庁舎跡では「県職員原爆犠牲者追悼式」が、広島市中区大手町二丁目の原爆犠牲者追憶の碑前では広島ガスが

16) 8月7日から9日にかけて、長崎でも合宿を行った。

主催する岡山瓦斯、山口合同ガスなど中国地方の5社の「合同追悼式」が、広島銀行本店屋上慰霊碑前では広島銀行主催の「被爆50周年物故者追悼式」が、NTT中国支社玄関そばの原爆慰霊碑前では「電気通信関係原爆死没者の慰霊式」が、中区小町では「原爆殉職医師、看護婦、職員の追悼法要」が、中国郵政局では「中国郵政局慰霊式」が、原爆ドーム横では「旧中国四国土木出張所殉職者の慰霊祭」が、広島赤十字・原爆病院前庭では日本赤十字社主催の「広島赤十字追悼式」が、流川教会では「追悼の礼拝」が、広島大学では「広島大学原爆死没者追悼式」が、広島市立高等女学校の慰霊碑前では広島市立高等女学校同窓会主催の「慰霊祭」が、平和記念公園では広島市主催の「原爆死没者慰霊式・平和祈念式」が、福

山市の原爆死没者慰霊碑前では福山市原爆被害者の会主催の「慰霊式」が、尾道市の原爆慰霊碑前では尾道地区原爆被害者の会主催の「慰霊祭」が、大竹市総合市民会館の慰霊碑「叫魂」前では「第13回市原爆死没者追悼・平和祈念式典」が、山口市宮野の原爆死没者之碑では「広島原爆忌・死没者追悼式」が、花巻市では原爆被害者団体花巻協議会主催の「被爆50周年慰霊祭」が、東京・目黒の五百羅漢寺では「移動演劇『桜隊』の慰霊法要」が、岡山市の岡山市原爆死没者供養塔前では「追悼式」が、鳥取市のさざんか会館では鳥取県原爆被害者協議会主催の「原爆死没者追悼・平和祈念式」が、福岡県星野村では福岡県被団協主催の「福岡県原爆死没者慰霊祭」が、熊本市では熊本県原爆被害者の会主催の「原爆犠牲者

表2 1995年8月6日の慰霊行事

行事名	場所	主催者
県職員原爆犠牲者追悼式	旧県庁舎跡（広島市中区加古町）	
合同追悼式	原爆犠牲者追憶之碑前（広島市中区大手町二丁目）	広島ガス
被爆50周年物故者追悼式	広島銀行本店屋上慰霊碑前	広島銀行
電気通信関係原爆死没者の慰霊式	NTT中国支社玄関そばの原爆慰霊碑前	
原爆殉職医師、看護婦、職員の追悼法要	中区小町	
中国郵政局慰霊式	中国郵政局	
旧中国四国土木出張所殉職者の慰霊祭	原爆ドーム横	
広島赤十字追悼式	広島赤十字・原爆病院前庭	日本赤十字社
追悼の礼拝	流川教会	
広島大学原爆死没者追悼式	広島大学	
慰霊祭	広島市立高等女学校の慰霊碑前	広島市立高等女学校同窓会
原爆死没者慰霊式・平和祈念式	平和記念公園	広島市
慰霊式	原爆死没者慰霊碑前（福山市）	福山市原爆被害者の会
慰霊祭	原爆慰霊碑前（尾道市）	尾道地区原爆被害者の会
第13回市原爆死没者追悼・平和祈念式典	大竹市総合市民会館の慰霊碑「叫魂」前	
広島原爆忌・死没者追悼式	原爆死没者之碑（山口市宮野）	
被爆50周年慰霊祭	花巻市	原爆被害者団体花巻協議会
移動演劇「桜隊」の慰霊法要	五百羅漢寺（東京・目黒）	
追悼式	岡山市原爆死没者供養塔前（岡山市）	
原爆死没者追悼・平和祈念式	さざんか会館（鳥取市）	鳥取県原爆被害者協議会
福岡県原爆死没者慰霊祭	福岡県星野村	福岡県被団協
原爆犠牲者の碑除幕式、慰霊式典	熊本市	熊本県原爆被害者の会
第28回韓国人原爆犠牲者追悼式	大韓赤十字社ソウル支社	
灯ろう流し	元安川	
平和の祈り	世界平和記念聖堂	

の碑除幕式、慰霊式典」が、大韓赤十字社ソウル支社では「第28回韓国人原爆犠牲者追悼式」が、元安川では「灯ろう流し」が行われた。また、前述の世界平和記念聖堂での「平和の祈り」も6日に行われた慰霊行事である。

8月6日には、慰霊行事以外の行事も行われている。広島グリーンアリーナでは連合、原水禁、核禁会議が初めて合同で開く「連合平和ヒロシマ集会」が、平和記念公園内のレストハウスでは元大正屋呉服店を保存する会・原爆遺跡保存運動懇談会主催の「交流会」が、旧広島県庁舎では「旧広島県庁舎の記念碑の除幕式」¹⁷⁾が、温井ダムでは建設省温井ダム工事事務所・加計町・戸河内町などで作る実行委員会主催の「温井ダム祭り」¹⁸⁾が、三良坂平和美術館広場では「平和のつどい」が、広島国際会議場では「核文明の未来—歴史と人間を考える」をテーマとする広島市・広島平和文化センター主催の「ヒロシマ・地球市民フォーラム」が、安田女子高校では全国の高校生が平和学習の取り組みについて報告したり、歌や詩の朗読などで交流する全国高校生平和集会実行委員会・広島高校生平和ゼミナール主催の「ノー・ニュークス・コンサート」が、広島市中区大手町4丁目の留学生宿舍「興南寮」跡では元南方特別留学生らによる「留学時代をしのぶ会」が、益田市役所の駐車場では「平和をすすめる市民の会」の「反核平和集会」が、原爆ドーム周囲では「ダイ・イン」が、原爆供養塔前では裏千家淡交会の「平和祈念茶会」が、江津市の原爆被爆者有福温泉療養研究所「有福温泉荘」では「平和祈念式」が、平和大通り緑地帯の石灯ろうでは広島市地域女性団体連絡協議会の「献灯式」が、広島市中区のホテルでは村山富市首相と広島県原爆被害者団体協議会理事長の伊藤サカエら7つの被爆者団体の代表7人が話し合う「被爆者代表から要望を聞く会」が、平和記念公園から長崎市までのルートでは広島壮年走ろう会の「ひろしま・ながさきピースリレー」が、太田川河川敷では「ヒ

ロシマと沖縄の心を結ぶ祈りの旅」(『中国新聞』1995.8.7朝刊)を続けていたミュージシャン喜納昌吉らの一行を出迎える「歓迎セレモニー」が、広島YMCAでは「原爆被害者証言者のつどい」が、広島厚生年金会館では1986年に始まり、「ミュージシャンの社会的な表現活動の草分けとなった」(『中国新聞』1995.8.7朝刊)とされる南こうせつらによるピースコンサート「HIROSHIMA'95」が、広島国際会議場ではマイケル・T・トーマスが率いるPMFオーケストラと広島交響楽団による「平和コンサートの夕べ」が、善正寺では平和記念資料館で流れる詩に曲をつけた「白い道」を披露する「マル・ワールドロン」が、西区民文化センターでははぐるま座による「音楽詩劇『夏の約束』」の公演が、牛田旭2丁目の「ピカドンたけやぶ」では画家のはらみちをの絵本をもとに合唱曲「ピカドンたけやぶ」を作った作曲家藤村記一郎と愛知県内の4つの合唱グループによる「ピカドンたけやぶピースコンサート」が、元安川では広島祭委員会・中国新聞社など主催の「被爆50周年鎮魂新能」が、広島電鉄本社などでは広島電鉄が企画し、全国原爆被爆教職員の会の石田明らが呼びかけた「電車内被爆者の集い」が、岡山県浅口郡里庄町立図書館では被爆体験や手記などを構成した「朗読劇『この子たちの夏』」の上演」が行われた。

また、この日には場所は不明であるが、メキシコの知識人や芸術家らで構成する環境保護団体「100人グループ」と環境保護団体「グリーンピース」が共同で行う「抗議行動」と退役米国軍人らによる「『日米不戦兵士の会』との対話集会」が行われた。

1995年の8月6日には、全国各地で原爆関連行事が行われた¹⁹⁾。北海道では函館市で「無料電車『平和号』」の運行と「ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター展」が、北見市で「市内の寺院教会が一斉に打鐘」が、留萌市で「広島・長崎原爆パネル展」が、深川市で黙とうと平和都市宣言文

17) この行事は前述の「県職員原爆犠牲者追悼式」に先立って行われた。

18) この行事では被爆50周年コーナーが設けられた。

19) この段落で記述する行事は『中国新聞』の紙面では「全国『8・6』主な催し」として掲載されているため、8月6日の行事として記述したが、展覧会など数日間わたって開催されることが多い行事形態のものについては8月6日前後にも開催されていた可能性があると考ええる。

の朗読を行う「平和記念大会」が、新得町で「沖縄・被爆パネル展」が、山形県米沢市では「戦争と平和の資料展」が、茨城県では原爆展とビデオ上映をする「日立市平和展」²⁰⁾が、古河市で「非核映画会」が、千葉県では我孫子市で「平和記念碑前で黙とう、献花」と被爆体験記の朗読会と原爆展を開くという「被爆 50 周年記念行事」が、八千代市で「終戦 50 周年記念平和事業『黙とうと献花の会』」が、野田市で野田市職労主催の「原爆写真展」が、東京都では目黒区で黙とうと平和都市宣言文の朗読をする「平和祈念のつどい」と「平和の鐘打鐘」、「平和のための写真・資料展」、「『平和の石』のつどい」が、中野区で「フランスのシラク大統領に核実験再開の撤回を求める神山好市区長名の手紙を発信」が、新潟県津南町では「原爆パネル展」が、長野県では伊那市で福岡県星野村から分けた原爆の火と平和の塔の前で平和の祈りを行い、「はだしのゲン」を上映する親子映画会とピースコンサートを行う「市民平和のつどい」が、松本市で平和ポスターの展示や平和の曲を平和の鐘・カリヨンで演奏する「平和祈念旬間」が、戸倉町で「ヒロシマ、ナガサキ、沖縄などの被爆、戦争写真パネル展」が、岐阜県美濃加茂市では「平和を祈願する市民の集い」と「平和演奏会」、「原爆写真展」が、三重県では上野市で「ヒロシマ、ナガサキ写真展と原爆映画上映」が、四日市市で「市内の約 200 ヲ寺が鐘を鳴らし、市民が一分間の黙とう」をする行事が、青山町で「原爆をテーマにした演劇『明日』の上演」が、滋賀県守山市では戦時中の服や生活用品などを展示する「平和の喜び展」が、京都府では京都市で早坂暁の講演とアニメ上映、原爆写真ポスター展を行う「平和を考える市民のつどい」が、八幡市で「小中学生が平和をテーマに描いた絵画 313 点の展示」が、大阪府では吹田市で「市民平和の集い」と「平和コンサート」、「非核平和資料展」が、摂津市で平和月間の行事として「映画『黒い雨』上映」が、和泉市で「非核平和展」と「広島・長崎の体験談などの講演会」が、岸和田市で「非核平和資料展」が、兵庫県加古川市では広島平和文化センター所蔵の「原爆の絵の

展示」が、奈良県では奈良市で「県原爆被害者の会の代表らが平和の鐘を鳴らし、東大寺など市内の寺院の鐘を合図に市民が一分間の黙とう」をする行事が、天理市で「主要寺院が平和を願う鐘」を鳴らす行事が、和歌山県すさみ町では原爆写真を展示する「平和集会」が、徳島県阿南市では平和祈念集会で黙とうし、核実験反対の特別決議を行い、平和宣言をする「市民平和のつどい」が、愛媛県松山市では読経や子ども会による朗読を行う「おこり地藏供養祭」が、福岡県星野村では黙とう、献花、平和の誓い、コーラス合唱を行う「平和祈念式典」が、佐賀県鳥栖市では名画で戦争を考える週間として「『黒い雨』などの上映」が行われた。

8月6日には、海外でも複数の行事が行われている。英国コベントリー市のコベントリー大聖堂では広島国際会議場に設置されたブロンズ像「レコンシリエーション（和解）」と同じ像の「除幕式」が、ドイツ・ハノーバー市では被爆 50 周年の「平和式典」が、ワシントン中心部のリンカーン記念堂前では国際環境保護団体グリーンピースなどが主催する「反核集会」が、米国ミズーリ州インディペンデンスのトルーマン・ライブラリーでは原爆投下を命じた「故トルーマン大統領をしのぶ式典」が、オーストラリアの主要都市では広島デー委員会主催の「反核平和行進」が、赤の広場では環境保護団体グリーンピースのモスクワ支部のメンバーらによるフランスの核実験再開決定やロシア、米国などの核政策に対する「抗議行動」が、台北市内の公園では民主進歩党による「平和を、原爆 50 周年記念大会」が、米国・シアトル市のクエーカー教会では「広島市特別名誉市民のフロイド・シュモアの誕生会」が、クエーカー教会の近くのグリーン湖では数百個の灯ろうを流して原爆犠牲者の霊を慰め、世界平和実現のために働くことを誓い合う「ヒロシマ・デー」が、バチカンのパウロ 6 世記念会館では「被爆者追悼コンサート」が行われた。

8月6日と9日には、原爆がエノラ・ゲイとボックスカーに積み込まれたノースフィールドの弾薬置き場で北マリアナ諸島の記念委員会による

20) 行事の名称から日立市で開催されたと考えられる。

「祈祷集会」が行われた。そして、8月6日から20日にかけて、基町クレド・広島中央公園・平和大通りで「ヒロシマアートドキュメント」が開催された。

何日間開催されたか不明であるが、8月6日まで、日本原水協などの「原水爆禁止世界大会・広島」²¹⁾が、平和記念資料館では広島市などが募集した「ひとこと」を展示する「『ひろしま 21世紀へのはがき』展」が、中国新聞ビルでは「片岡脩被爆50年 ラブピース ポスター展」が行われた。また、8月6日からは、場所は不明であるが、日本への原爆投下にあたった米軍第509爆撃混成隊の14回目の「戦友会」が開かれた。

2.2.1.4 8月7日から15日までの行事

8月7日には、広島県民文化センターで広島県・広島市主催の「被爆者の健康を守るつどい」が、縮景園で「『ワールド・フレンドシップ・センター』の30周年記念式」が、広島郵便貯金ホールで喜納昌吉らによる「サバニ・ピース・コンサート広島」が行われた。同じ日には、廿日市小学校で神奈川県藤沢市の小中学生との「平和交流会」が行われた。

8月7日から9日にかけて、長崎県立体育館などで原水禁などの「被爆50周年原水爆禁止世界大会長崎大会」が行われた。そして、8月7日から25日にかけて、広島西郵便局で西区己斐公民館で活動する「たんぼぼ・子供の絵を見守る会」の子どもたちの絵39点と米国・サンフランシスコ市のセザール・チャベス小学校から送られてきた児童24人による作品集が展示される「ヒロシマ・ナガサキ被爆50周年記念広島とアメリカの子どもたちの作品交換展」が開かれた。

何日間開催されたか不明であるが、8月7日まで、中国新聞ホールでは「核のない平和な地球」をテーマとする「日本マスコミ文化情報労組会議(MIC)の広島フォーラム」が、JTインフォプラザでは「『8・6の祈り』写真展」が行われた。

8月8日には、ワシントンのホワイトハウス前の公園で「広島・長崎平和委員会」が呼びかけた「追悼集会」が、長崎県立総合体育館で連合主催、原水禁国民会議・核禁会議協催の「'95連合平和

ナガサキ集会」が、長崎市の市民会館で日本原水爆被害者団体協議会・長崎原爆被災者協議会主催の「ノーモア・ヒバクシャ国民のつどい長崎」が、アステールプラザで「広島市バレー協会被爆50周年記念公演『ピース』」が行われた。また、場所は不明であるが、この日には原爆ドームの世界遺産化に向けた推薦手続きを進めるための「『世界遺産条約協力者会議』の初会合」が行われた。

8月8日から9日にかけて、日本原水協などの「原水爆禁止世界大会・長崎」が開かれた。この行事は、9日には長崎市民会館体育館で行われた。そして、8月8日と9日には小中学生による「舞踏劇『千羽鶴』」の公演が行われた。この行事は8日には幟町小学校で、9日には広島国際会議場で行われた。また、9日の公演は広島青年会議所が企画した。さらに、8月8日から13日にかけて、広島県民文化センターで「原爆を針金でしばっちまえないのかなあ」をテーマとする「小川憲一平和絵画展」が開かれた。また、8月8日から14日にかけて、広島県民文化センターで「広島市の画家3人が、戦後50年とヒロシマとのかかわりを作品によって検証を試み」た(『中国新聞』1995.8.9朝刊)「ヒロシマ50 1995 入野忠芳・香川龍介・田谷行平展」が、JTインフォプラザで「黒瀬輝智志写真展『ヒロシマスケッチ』」が開かれた。

何日間開催されたか場所が不明であるが、8月8日まで、長崎県が主催し海外から非政府組織(NGO)の代表や研究者らを招いた「国際市民フォーラム・長崎」が行われた。この行事は「平和一軍縮と環境」をテーマにしたもので、最終日には「核兵器の廃絶を一日も早く実現するとともに、過去の戦争に対する責任を自覚すべきだ」という内容の長崎宣言が採択された。同じく何日間開催されたか不明であるが、8月8日まで、ギャラリーてんぐスクエアで「1995ピースフレイバーヒロシマ」が開かれた。

8月9日には、長崎市の平和公園で長崎市主催の「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」が、長崎市の爆心地公園で「朝鮮人犠牲者の追悼集会」と「平

21) 6日は広島グリーンアリーナで行われた。

和集会」が、浦上天主堂でカトリック信徒の犠牲者を追悼する「追悼ミサ」が、世界平和記念聖堂で「追悼ミサ」が、佐東公民館で朗読劇「この子たちの夏」の上演やアニメ映画「つるにのって」の上映などをする「平和のつどい」が開かれた。場所は不明であるが、この日にはアジア諸国の若者らが意見交換する「平和のつどい」が開かれた。

8月9日から9月17日にかけて、カナダのモントリオール市役所でモントリオール市主催の「広島展」が開かれた。この行事では、広島市が貸し出した被爆資料7点と写真パネル35枚、説明パネル7枚が展示され、「原爆被害だけでなく、明治以来の軍都と学都としての歴史、被爆後の復興と平和への取り組みも紹介」された（『中国新聞』1995.8.10 朝刊）。

8月10日には、太田川放水路河川敷で広島祭委員会・太田川放水路祭委員会・広島市観光協会・広島ホームテレビ・中国新聞社主催の「95ひろしま夏祭り太田川花火大会」が行われた。この行事では、「世界平和への祈りをこめ、『LOVE & PEACE』（愛と平和）と題し」て花火が打ち上げられた（『中国新聞』1995.8.11 朝刊）。同じ日には、広島国際会議場で「Peace 1995 メモリアルコンサート」が行われた。

何日間開催されたか不明であるが、8月10日まで、INAX スペースで広島女学院高女2年の時に被爆した絵本作家森本順子による「わたしのヒロシマ森本順子の絵本原画展」が、野の花美術館で「吉野誠 反核座り込みスケッチ展」が、府中町の歴史民俗資料館で「被爆資料展」が、広島市の8区役所で広島平和文化センターが制作したポスター20枚を展示する「ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター展」²²⁾が開かれた。

8月11日から13日にかけて、広島で日米の学生が毎年交互に訪問し、意見交換する「日米学生会議」が行われた。この行事では、参加者が平和記念資料館を訪れたり、被爆者の体験談を聞いた。そして、8月11日から16日にかけて、メルパルク広島で広島県日中友好協会青年委員会主催の「中国近現代水墨画名作展」が開かれた。

この行事は、戦後50年を記念したもので、中国で平和の象徴とされる竹やハトの絵を中心とした水墨画約250点が展示された。

何日間開催されたか不明であるが、8月11日まで、日本興業銀行広島支店で「吉山幸夫素描展『平和の祈り』」が開かれた。

8月12日には、メルパルク広島で「詩誌『火皿』戦後50周年特集合評会」が行われた。合評会の後には長津功三良の原爆をモチーフとした『『影たちの証言』の出版記念会』も行われた。同じ日には、白竜湖スポーツ村公園で「さだまさし平和祈念コンサート」が行われた。

8月13日から31日にかけて、府中町の歴史民俗資料館で「『被爆50周年祈念広島1500景』森山松二写真展」が開かれた。

何日間開催されたか不明であるが、8月13日まで、広島市立中央図書館で「ヒロシマと文学展」が、海田町のふるさと館で「原爆の絵展」が開かれた。

8月14日には、長崎市内で長崎市長と市内3校の中学生18人が意見交換する「中学生と長崎市長の平和を語る会」が行われた。

8月15日には、広島県立総合体育館で「戦後50周年県戦没者追悼式」が開かれた。

8月15日から年末にかけてシンガポールの国立博物館で広島への原爆投下とベルリンの壁崩壊の疑似コーナーを中心とする「終戦50周年記念の特別展示」が行われた。

何日間開催されたか不明であるが、8月15日まで、福屋でニューヨークと東広島市八本松町を拠点に活動している彫刻家ゼロ・ヒガシダらが世界のアーティストに呼びかけて寄せられた油絵、版画、彫刻、写真などの作品53点を展示する「平和へのアプローチ展」が開催された。

2.2.1.5 8月16日以降の行事

8月16日から19日にかけて、広島県大和町や平和記念公園などで「まほろば連邦子どもサミット」が開かれた。この行事は、「友情・平和・未来」をテーマにしたもので、全国12市町村の小学生が平和学習などをした。そして、8月16日から23日にかけて、広島国際会議場などでは広

22) 東区役所のみ8月17日まで開催された。

島市被爆 50 周年記念事業の一環で広島市・広島大学・広島市立大学・中国新聞社などが主催する「広島国際学生アートフェスティバル'95」が開かれた。

8月18日から21日にかけて、広島の被爆者や教師などが韓国を訪問し、釜山市、大邱市、全羅北道裡里市で被爆者との交流会を開く「日韓被爆者交流の旅」が行われた。

何日間開催されたか不明であるが、8月20日まで、鳥取県立博物館で「戦後50年・戦争と美術展」が開かれた。

8月26日には、アメリカでユダヤ系アメリカ人の詩人ローゼンバーグがナチによる大量虐殺を詠んだ詩と小田実の著書「HIROSHIMA」に曲をつけた「朗読劇」が上演された。

何日間開催されたか不明であるが、広島市映像文化ライブラリーで「いのちと平和」をテーマに「子どもたちに被爆の実相を伝えるアニメーション映画の上映会」²³⁾が行われた（『中国新聞』1995.8.9夕刊）。

詳しい日程は不明であるが、8月には神石郡神石町で被爆50年、戦後50年を記念し、新成人代表が平和の像「平和50年の彼方に」を除幕する「成人式」が行われた。

9月1日から5日にかけて、タヒチ島近海で広島インランドシー・ヨットクラブがフランスの核実験再開決定に抗議するために計画した「反核セーリング」が行われた。

9月2日には、タヒチでフランスの核実験再開決定に対する「国際抗議集会」が開かれた。

9月2日、3日、9日、10日、16日、17日には、広島市現代美術館で「平和祈念コンサート」が開かれた。

何日間開催されたか不明であるが、9月3日まで、東広島市立美術館で原爆をテーマにした約90点を展示する「現代絵本作家原画展『絵本にみる平和への思い』」が開かれた。

9月7日には、広島スタジアムで広島県サッカー協会・中国新聞社主催の「平和祈念サッカーサントス FC ユース・フェスティバル」が行われ

た。

何日間開催されたか不明であるが、9月30日まで、広島の郷土資料館で「シリーズ展『母の記録—被爆その後』」が開かれた。

11月3日には、広島スタジアムから商工センターまでのルートでひろしま国際平和マラソン実行委員会主催（主管は中国新聞社）の「第15回ひろしま国際平和マラソン」が行われた。

2.2.1.6 開催日程が不明な行事

この年には開催日程が不明な行事も複数あった。大竹市役所を通るルートでは「非核平和行進」が、広島市では東方2001・中国新聞社主催の「戦後50年・アジア理解への行動提起」をテーマとする「連続シンポジウム『ヒロシマを語る』」が行われた。これらの行事は8月2日朝刊に掲載された。そして、東京から広島市までのルートでは自転車リレーをする「ピース・サイクル'95」が行われた。この行事は8月4日朝刊に掲載された。さらに、満景寺では浄土真宗大谷派山陽教区主催の「被爆50周年真宗大谷派非核非戦法要」が、広島市南区のホテルでは「核禁会議の広島地方集会」が、仁保公民館では広島市南区仁保学区の住民によって「ピース・ワールド・イン・広島'95」に出演するために来日したレバノン・ベイルート市の小学生との「交流会」が、アステールプラザでは「被爆50年を迎え、飢餓や貧困など多くの課題を抱えるアジアの現状を、どう改善するかを考えよう」（『中国新聞』1995.8.6朝刊）という趣旨で連合広島が主催した「アジアから飢餓と貧困をなくす集い」が、広島グリーンアリーナでは日本生協連の「'95ヒロシマ虹のひろば」が、日本各地から広島市・長崎市までのルートでは平和を祈りながら走る米国先住民ネイティブ・アメリカンの儀式「セイクレッド・ラン」が、立命館大学と広島ではアメリカン大学准教授の歴史学者ピータ・カズニックと同大職員の直野章子が主宰する「核問題をテーマにした夏期セミナー」が、広島市中区八丁堀のYMCAコンベンションホールでは前長崎市長の本島等が平和への提言を盛り込んだ講演を行う「'95生協ヒロ

23) 記事の内容から「名作映画鑑賞会『被爆50周年特集』」とは別の行事と判断し、『中国新聞』1995年8月11日朝刊に掲載されている「夏休みこども映画『被爆50周年特集』」と同一の行事と判断した。

シマ行動学習講演会」が行われた。これらの行事は8月6日朝刊に掲載された。また、サンフランシスコでは「日系米国人被爆者の集会」が、出発地は不明であるが、10日間かけて長崎に向けて歩く熊本歩け歩け会が呼びかけた「平和アピール・ウォーク」が、太田川河川敷ではフランスの核実験への反対署名を呼びかけたりする実行委員会主催の学生交流イベント「地球遊宴知」が行われた。これらの行事は8月7日朝刊に掲載された。場所も不明であるが、旧制広島一中の「原爆死没者慰霊祭」が開かれた。この行事は8月5日朝刊に掲載された。

2.2.2 小括

この年代の行事の特徴は3点ある。

まずあげられるのが、8月6日に行われた行事からわかるように、全国的に原爆関連行事が行われたということである。

2点目にあげられるのが、「朗読劇『トンボが消えた日』上演」や「シンポジウム『アジアの司教から』」などのように、第二次世界大戦における日本の加害責任と関連づけて原爆を語る行事が目立つようになったことである。

3点目にあげられるのが、飢餓や貧困、環境問題や原発問題などと結びつけて原爆を語る行事が目立つようになったことである。たとえば、平和、環境、飢餓をテーマとした「'95国際高校生サミット」や「キエフ・チェルノブイリ連合」主催の「被爆50周年の原爆展」、「平和—軍縮と環境」をテーマとした「国際市民フォーラム・長崎」などがあげられる。

3 おわりに

本稿では、1985年と1995年の8月1日から15日までに発行された『中国新聞』に掲載されたすべての原爆関連行事について記述してきた。

1985年と1995年の2時点の比較をすることでみえてくるのは、1985年の時点の行事は戦争や核軍縮と関連づけて原爆を語るものがほとんどであったが、1995年になると、戦争や核軍縮という範囲を超えて、飢餓や貧困、環境問題や原発問題といったテーマと関連づけて原爆を語る行事が目立つようになったということである。

冒頭でも述べた通り、本研究は広島における原爆関連行事を戦後10周年から10年ごとに記述するものである。本稿では、1985年と1995年という2つの年代について記述してきた。今後、2005年以降の行事についても記述していきたい。

付記

本稿は2019年度に関西学院大学大学院社会学研究科に提出した修士論文の付録資料の一部を文章化したものである。

文献

渡壁晃, 2021, 「広島における原爆関連行事の通時的変化(一)」『関西学院大学社会学部紀要』136: 87-101.

The Transition of Events Surrounding the Hiroshima Atomic Bomb (2)

ABSTRACT

This article describes events surrounding the Hiroshima atomic bomb in 1985 and 1995. The data were collected from the local newspaper, *The Chugoku Shimbun*. It describes all the events that appeared in this local newspaper published in the first half of August of each year.

Using descriptions, this study revealed the characteristics of each year's events. The events in 1985 had two features: first, a grassroots movement held many events; second, administrative agencies held events. These events were related to Nuclear Free Local Authorities Declaration. The events in 1995 had three features: first, the events were held in many parts of the country on August 6; second, the events focused on the characteristics of Japan as a perpetrator in World War II were held; third, the events recalling the Hiroshima atomic bomb attack with contemporary problems, such as starvation, poverty, environmental issues, and nuclear power plants were held.

In conclusion, this article presents the characteristics of events that occurred between 1985 and 1995 based on the mentioned features. In 1985, almost all the events recalled the Hiroshima atomic bomb in relation only to war and the nuclear weapon. However, in 1995, some events that recalled this incident went beyond war and nuclear weapons.

Key Words: sociology of warfare, the Hiroshima atomic bomb, events